

練り込み技法による陶器の制作

“Nerikomi” Patterns and Techniques

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 価値創造研究室

白水鈴音 指導教員 西野隆司

キーワード：陶器, 練り込み技法, 伝統工芸,

1. 研究背景と目的

伝統工芸品が少なくなっている世の中に、ものづくりでしか感じられないぬくもりやこだわりをたくさんの人に知ってもらいたいと思い、SDGsの12「つくる責任つかう責任」を念頭にこの研究テーマにした。伝統工芸品である陶器にした理由は、人々の身近にあり想像しやすい、既に、練り込み技法を使用した食器で人気が出ているため、興味を持ってもらえると考えたからである。

研究目的としては、伝統工芸品に触れる機会を提供。若者に興味を持ってもらう、無駄のないゴミを出さないデザインにすることを目標にする。

2. 調査内容

〈調査内容 1〉伝統工芸品の衰退に注目した。伝統工芸品や日本のものづくりが衰退する理由は、三つある。

1. 伝統工芸品は売れない、儲からない。

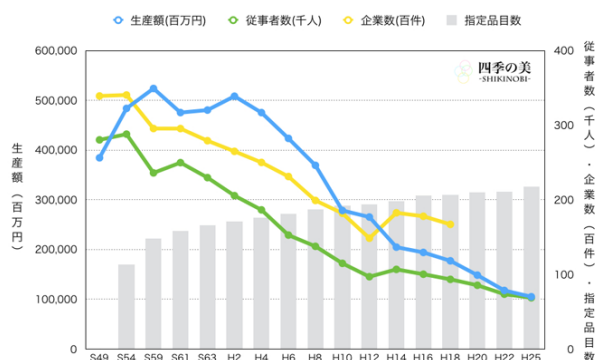
良さが伝わらない、若者向けの物が少ないなど興味を持ってないと感じた。ニーズに合った物が少ないと思う。

2. 職人が作る以外のことを行うことが難しく、時代のニーズを捉えた商品を開発できたくさん売ることができたとしても、直接注文を受けたり、製造工程を管理してお客様まで届けたりといった「作ること以外のこと」を不慣れな職人さんが行うことが非常に難しいということ。

3. そもそも職人さんがいない、後継者不足ということが挙げられた。この高齢化と後継者不足は非常に深刻で。地域の伝統工芸品展などに参加している職人さんたちは、高齢者が多い。逆に20代、

30代の若手の方が参加されていることが実情になる。この3つを避けるためには、伝統工芸品の良さ、作り方を知ってもらうことが必要になってくる。

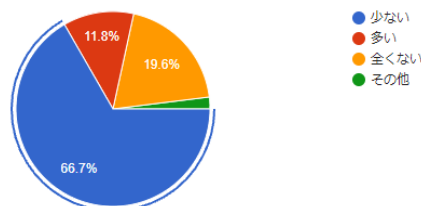
下記のグラフは、伝統工芸品の年間生産高、企業数、従事者数の推移グラフである。



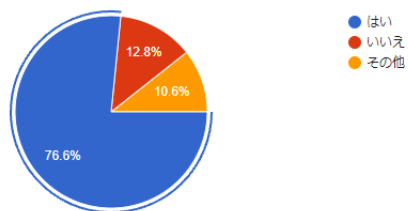
1 出典：四季の美 (1)

〈調査内容 2〉51名に、伝統工芸品についてアンケートを取った結果、伝統工芸品に触れる回数が少ないが大半だった。触れ合う機会があれば使用したいと思っている人がほとんどだが、実際提供している所は少ない。その原因もあり伝統工芸品に対しての興味が薄れていることが分かる。その為、体験できる場を設けるべきだろう。

伝統工芸品に触れ合う機会がありますか
51件の回答



伝統工芸品の陶器体験があったら使用したいですか
47 件の回答

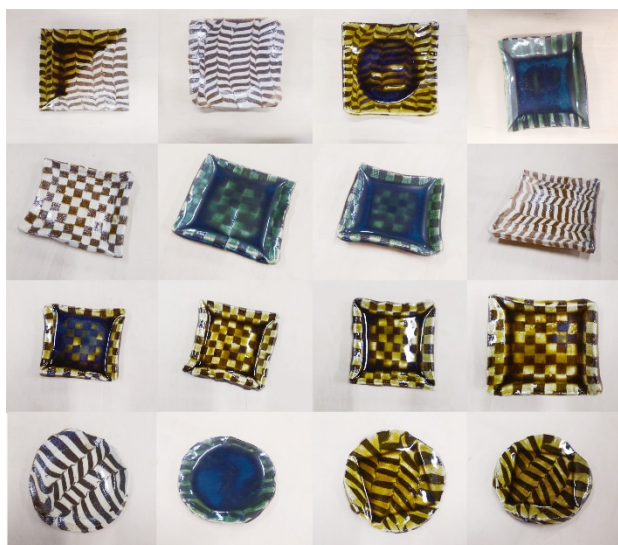


3. コンセプト及びアイデア展開

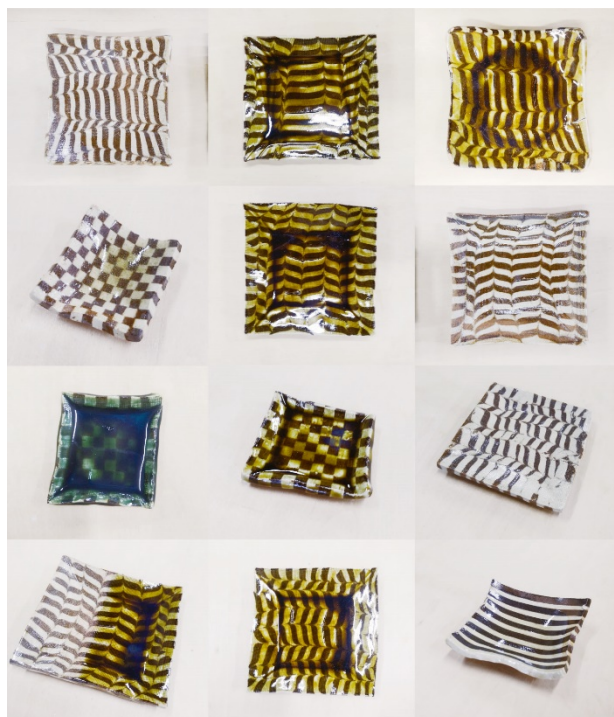
上記の調査結果から、伝統工芸品の再興を目指す。まず、伝統工芸品を知ってもらうには、消費者に手に取ってもらわなければならない。今回若者たちに伝統工芸品の良さや、ものづくりの楽しさ知ってもらい陶器をきっかけに興味を持って頂きたい。そのため、ニーズにあったものを提供する。練り込み技法を使って、皿を制作する。何皿も練りこみと釉薬の組み合わせを試してどれが一番手に取ってもらえる色味や模様なのか、若者受けなのかを検証する。

4. 現段階の提案

現段階の提案として、制作した陶器を若者たちに手に取ってもらい、伝統工芸品でしか味わえない温もりやものづくりの必要さ、楽しさの魅力を触れてもらう機会を提供する。下記の写真は、現段階で制作した陶器である。



1 試作1



5. 今後の展開

現在無難な色味しかない為、今後の提案としてシンプルな色以外も試してみる。今までにない色味や模様の陶器を制作し、好まれるか調査していきたい。そして、陶器に興味を持ってもらい伝統工芸品への興味が出ることを目標にする。それに加えて地域貢献として、販売、体験を設けたいと考えている。

6. 参考文献

(1) 四季の美 “伝統工芸品とは？伝統工芸業界の現状と生産高推移、職人後継者について”

<https://shikinobi.com/traditionalcrafts-info>

閲覧日 2021-10-19

(2) うるしアートはりや “SDGs と蒔絵. 伝統工芸の蒔絵でSDGsの12番「つくる責任つかう責任」”

<https://shop.urushiarthariya.com/?mode=f12>

閲覧日 2021-10-19